

10/22(土)

14:00～15:30

国際コミュニケーション学部 教授
神尾 登喜子

Gentleman というダンディズム –時代を先取りした男たち–

昨今、女性の目から見た時、男性の中にダンディズムが希薄では、と錯覚することがある。女性管理職30%の時代的目標。とはいえ、女性が自立的であればあるほど、男性に向けた視線もダンディーさを求めてしまう。本講において取り上げる新島襄と白洲次郎。決して表舞台上で活躍した人物ではないが、彼らが持っていたダンディズムを通して、ハンサムなライフスタイルを考えてみたい。

出身校:同志社大学大学院文学研究科前期博士課程 博士(国文学・同志社大学)
研究テーマ:日本文化の神・仏一近代日本に翻弄された信仰と聖なる地
主要業績:『びわ湖街道物語ー西近江路の自然と歴史を歩くー』(翰林書房2014年)
「知らなかった『聖地』の歩き方」「神宮ご朱印めぐり」で清らかな心になる(『一個人』KKベストセラーズ6月号)

11/5(土)

14:00～15:30

流通学部 教授
加藤 清孝

スポーツ組織もプロにならなければ –東京オリンピック2020に向けて–

ルールを定め大会を運営し、そのスポーツの強化と普及を図るのがスポーツ統括団体です。近年、トップ選手はプロ化の傾向にあります。多くの統括団体は、旧態依然としてボランティア団体の域を出ていません。東京オリンピックは、組織もプロ化する絶好の機会となります。この講座では、スポーツ統括団体を切り口に、日本スポーツの課題と可能性を見ていきます。

出身校:コネチカット大学大学院 博士(Ph.D.・コネチカット大学)
研究テーマ:スポーツマーケティング・スポーツ組織行動
主要業績:「スノーアスリートたちによる被災者支援」『スポーツ産業学研究』第22号第1巻、2012年
『実践から読み解くスポーツマネジメント』見学出版、2011年
「女性専用フィットネスクラブ選択へ影響を及ぼす要因の質的研究」『スポーツマネジメント研究』第1巻1号、2009年

11/26(土)

14:00～15:30

国際観光学部 教授
小林 弘二

昨今の観光現象(爆買いや民泊等)の本質について

昨年訪日外国人旅行者は1,973万7千人、旅行消費額は3兆4,771億円といずれも過去最高を記録しました。また、中国人観光客の購買現象を表した「爆買い」や「民泊」が国家戦略特区の施策になるなどインバウンドの盛隆が新たな社会現象として頻りにメディアに取り上げられるようになりました。講座では、このような観光現象の本質について経済や社会との関りの中で時系列に捉えて探って行きます。

出身校:同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程 博士(政策科学・同志社大学)
研究テーマ:旅行ビジネスの比較研究
主要業績:『旅行ビジネスの本質』単著、見洋書房、2007年
新版『変化する旅行ビジネス』共編著、文理閣、2009年
『観光入門』共著、新曜社、2011年

12/10(土)

14:00～15:30

経営情報学部 教授
山内 孝幸日本における2大テーマパークに見るマーケティング戦略
–東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンの事例から–

東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンについて、ともにアメリカからやって来たテーマパークでありながらその内容は全く異なります。この度の講座では、日本を代表する2つのテーマパークのマーケティング戦略を比較・検討し、経営戦略の要点を考えます。

出身校:神戸大学大学院経営学研究科 博士(商学・神戸大学)
研究テーマ:マーケティング論・流通システム論
主要業績:『販売会社チャンネルの機能と役割 流通系列下のダイナミズム』中央経済社、2010年3月
『すべてがゲストのためにー東京ディズニーリゾートに学ぶマーケティング』見洋書房、2010年11月

1/28(土)

14:00～15:30

経済学部 准教授
村上 雅俊

データから考える日本の貧困 –ワーキングプア・生活最低限–

本講座では、近年のホットピックである日本の貧困問題を皆さんと一緒に考えたいと思います。特に日本のワーキングプアやナショナルミニマム(最低限度の生活水準)について、政府統計資料や独自の調査結果を含む様々な統計資料を示します。統計資料を見ながら日本の貧困について考えていきたいと思います。

出身校:関西大学大学院経済学研究科 博士課程後期課程 博士(経済学)関西大学
研究テーマ:貧困・不平等・格差の統計分析 エージェントシミュレーションによる社会・経済分析
主要業績:Masatoshi Murakami, Noriyuki Tanida(2014) "An Agent-Based Approach for Patient Satisfaction and Collateral Health Effects", S.-H. Chen, et al., Advances in Computational Social Science: The Fourth World Congress, Agent-Based Social Systems 11, Springer, pp.191-203.

2/25(土)

14:00～15:30

経営情報学部 教授
田上 博司

経営要素の情報化と新時代の経営学

「情報」は、ヒト、モノ、カネに並ぶ経営の第4の要素であると言われますが、本当に情報はこれらと並列に考えられるものでしょうか?本講座では、ヒト、モノ、カネに複雑に融合する「情報」の姿を見ながら、ビジネスにおける「情報」の正体を探ると同時に、これからの経営学のあり方を考えます。

出身校:神戸大学経営学部経営学科
研究テーマ:マルチメディア・コミュニケーション・現実・仮想現実間インタラクションに関する研究
主要業績:『マルチメディア情報学概論』二瓶社、2006年
『デジタルコミュニケーション』見洋書房、2007年
『経営と情報の深化と融合』税務経理協会、2014年

3/11(土)

14:00～15:30

国際コミュニケーション学部 教授
小寺 正洋

英語を学ぶ最大の壁 –単数と複数とa/an–

英語学習の難関のひとつが名詞の単数・複数とa/an(不定冠詞)の使い方です。英語の名詞には可算と不可算の区別があり、可算名詞はそのまま(裸)で使うことができません。例えば'dog'は「イヌ」の意味では'a dog'か'dogs'のいずれかで用いられ、裸の'dog'は不可算で「犬の肉」の意味になります。講座ではこうした英語が持つ単数・複数の世界をできるだけわかりやすく説明し、英語学習者のモヤモヤとした疑問を氷解し、自信を持って英語を使えるようになるための一助となることを目指します。

出身校:ケンブリッジ大学(英国)Research Centre for English and Applied Linguistics(MPhil), Dalhousie University(カナダ)MEd
研究テーマ:英語名詞の可算・不可算用法
主要業績:『ウィズダム英和辞典』三省堂(分担執筆・校閲)
「不定冠詞と修飾との関連性についてーCOBUILDdirectのデータからー」『英語コーパス研究』第5号、英語コーパス学会、1998年3月
「英語における可算具象名詞の不可算転換の容認度」JELS 29, 日本英語学会、2012年2月